



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

新生

香里病院

地域と共に歩む

開 7月1日
院



関西医科大学の三番目の附属病院として香里病院が、7月1日開院しました。平成17年に一旦、閉院しましたが、多くの市民が存続を望み、署名運動まで行われ、本学としても地域の要望に応えるべく旧病院跡地に建設を進めていきました。新生香里病院は「地域住民に信頼される病院」をキャッチフレーズに市民病的役割を担っていきます。

(京阪香里園駅から直結。連絡通路を渡ればそこが香里病院)

2・3・4面に関連記事

CONTENTS

香里病院特集	2	病院	12
法人 教育研究基盤整備企画室を設置	5	卒後臨床研修センター	14
就任の挨拶	6	附属看護専門学校	15
大学 共同研究講座	7	大学情報センター	16
平成23年度入学試験要項	7	キャンパス ニュース	17
学事	8	同窓会	18

6月5日 竣工式・竣工披露宴を開催

香里病院 特集

平成20年6月23日起工式、同年7月1日に着工、2年近くの工事期間を経て平成22年5月14日に竣工、6月5日に山下敏夫理事長はじめ寝屋川市の馬場好弘市長、寝屋川市医師会早川貫治会長、地元の香里園駅前東地区再開発事業組合の方々から関係者多数が出席の元、竣工式及び竣工披露宴・内覧会が行われました。そこで、山下理事長、高山康夫香里病院長の挨拶、来賓の祝辞の要旨を紹介し、5年ぶりに復活した香里病院は、高度医療を提供するとともに地域に貢献していきます。

地元の熱い思い感じた署名運動 山下理事長



本日、ここに新しい香里病院の竣工披露を迎えられましたことは大変な喜びでありまして、寝屋川市をはじめ、行政の方々、医師会などや香里園駅前東地区再開発組合、そして地域住民の方々のご協力とご支援の賜物と深く感謝いたしております。

さて、ここでまず香里病院がどのような経緯で誕生し、その後どのような道歩んだかについて述べ、次いでこの新しく開院します香里病院を紹介し、私の挨拶とさせていただきます。

本学は昭和3年に大阪女子高等医学専門学校として創設され、昭和22年に大阪女子医科大学へ昇格し、昭和29年に現在の関西医科大学へと発展してまいりました。その過程において、終戦直後の昭和22年3月、わが国に新しい学校教育法が公布され、医学専門学校は廃校になるか、大学への昇格するかの選択を迫られました。もちろん本学は大学へ昇格を希望したわけですが、そのためには新たな病床(ベッド)の確保が条件となっております。

そこで元特殊法人日本医療団が運営していた香里病院を買収し、病床を確保し、なんとか無事に大阪女子医科大学に昇格いたしました。実はこの買収のための資金の多くは同窓会の寄付によりました。このように大変な難局を乗り越え、昭和22年8月1日に大阪女子医科大学附属病院として香里病院は産声を上げたわけがあります。

ようやく手に入れた香里病院ではありますが、大正時代に建てられた木造建設であり、昭和30年から40年代にかけて、鉄筋コンクリートの建物に姿を変えていきましたが医療環境が激変していく中、建物は狭隘(きょうあい)なまま歳月は流れ、老朽化が進みました。

平成10年代後半に枚方新病院の建設が叶うことになり香里病院は閉院して売却し、その売却代金を枚方新病院建設の資金に充てることとしておりました。この香里病院閉院の話が地域に浸透するに従い、香里病院の存続を求める声が次第に高まり、寝屋川市、大阪府からは存続に向けての強いご要望、ご支援及びご指導をいただきました。さらに、寝屋川市医師会、歯科医師会および薬剤師会による香里病院存続に向けての署名運動が展開され、11万人を超える地域住民の方々から大変ありがたい好意的な応援を頂戴いたしました。

このような皆様方のご声援に応えるべく、慎重審議を重ねた結果、これまでの大綱方針を変更し、平成17年12月末日をもって香里病院は58年の歴史に一旦終止

符を打ち、改めて寝屋川市の多大なご援助のもと、新しい建物を建て、新しい香里病院を開院することといたしました。

ここで新しい香里病院の概要についてご説明いたします。まず、ハード面からご紹介いたします。新しい香里病院は地上8階、地下1階で建築延べ面積は約1万5,000m²であり、以前の約94%の面積を確保できております。旧香里病院の病床が353床であったことを勘案いたしますと新しい香里病院は病床数が200床であることから、ゆったりとした空間が確保できました。

各階に目を向けてみますと、7階の1フロアは女性専用フロアとなっており、3階には30床を有する透析センター、10床の外来化学療法室が時代や地域住民のニーズに応える形で設置されています。一方、病院の周囲に目を向けますと、京阪電車香里園駅から徒歩で、雨に濡れずに来院できる歩行者デッキがあります。また、再開発組合が推進しておられる“かほりまち”の2街区にこの香里病院が存在するわけですが、隣接する3街区には37階建てのマンションが建設中であり、また同じく隣接する1街区にも、高層マンションの建築が予定されています。更に、駅前広場や、周辺道路の整備にも着手しておられ、“かほりまち”が完成する暁には素晴らしい街並みが築き上げられるものと期待しております。

次にソフト面のご紹介をいたします。診療科は旧香里病院と同様の11診療科に加え、リハビリ科、乳腺外科など新しく加えています。また、地域の方々のご要望が多いことから、夕方診察も行います。病院スタッフは高山康夫病院長を筆頭に、各診療科の責任医師は実力者が、また看護師、コ・メディカル、事務も優秀な方々が揃い、我々としても自信を持った布陣となりました。

最後になりましたが、この新しい香里病院が附属枚方病院と附属滝井病院とも連携しながら、寝屋川市をはじめとする地域の皆様の医療に真に貢献できますよう、教職員一同力を合わせて邁進いたす所存でございます。今後ともよろしくご指導、ご協力をいただくことをお願いいたしまして私の挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。



左の写真は山下理事長の筆による「定礎」の文字。1階正面玄関入り口にあります。

「地域住民に信頼される病院」

香里病院の基本理念は「慈仁心鏡を礎に地域とともに歩む病院」です。まさにこの病院は新しいかほりまちとともに生まれ育っていく病院です。地域の方々の信頼に応え、そして新しい街に来られる新しい住人の方々からも支持される病院に育ててゆくことが我々に課せられた大きな使命であると考えております。その思いからこの病院のキャッチフレーズは「地域住民に信頼される病院」とさせていただきます。

200床の病院としては十分な常勤医師37名体制で開院します。これは香里病院長を拝名いたしました私にとりましても大きな心の支えであります。香里園駅と歩行者デッキでつながりますので、京阪電車を利用して通勤しておられる方々にとりまして、非常に来院しやすい病院になると思います。

しかし、働きながらの通院には多くの障害があります。このような働きながら来院されます方々のために

高山 康夫 病院長



夕方診療を実施いたします。内科と小児科では月曜日から金曜日まで17時から19時まで受け付けまして、通勤や通学しながら来院されます方の利便性を少しでも図っていきたくと考えております。

また、維持透析を中心とした30床の透析センターと10床の外来化学療法室を整備し、外来通院で治療が受けられるように設備の充実が図られています。7階病棟は女性専用フロアになっており、婦人科も週2回、乳腺外科は週1回夕方診療を行い、女性に対しても安全で優しい病院を心がけました。オール電化で環境にも優しい病院にもなっています。このように施設の面でも地域住民の方々の利便性を考えて安心して来院していただける病院であると自負しております。

元気都市寝屋川の強い味方

寝屋川市 馬場 好弘 市長

先程、山下理事長先生からこの香里病院建設について詳しく経緯がご披露されました。まさに寝屋川市民の切なる、大変強い要望にお応えいただきまして、そしてここに香里病院建設を決定をしていただきました関西医科大学の皆様方に心から感謝を申し上げる次第でございます。まさに寝屋川市民を代表して重ねて心から厚くお礼を申し上げます。



また、本日の竣工を迎えるにあたりまして、関西医科大学の前塚原理事長先生、また山下理事長先生はじめ学校関係者の皆様方、また寝屋川市前医師会長であります宮崎先生、現早川会長先生はじめ三師会の先生方には、大変お力添えを賜わりまして、心から敬意を表しますとともに、感謝を申し上げる次第でございます。

さて今、地域医療、医師不足等々によりまして、大きな社会問題になってきているところでございます。この中にありまして、当香里病院、先程からいろいろご説明をお伺いいたしておりますが大学病院としての高度な先進医療と、そして素晴らしい先生方、スタッフを集めていただきまして、素晴らしい医療を提供していただくということはまさに地域の皆様方の医療に対する安心の確保とそして医療体制の充実と発展に大きく貢献していただけるものと存じます。大変お世話をおかけいたしますが、寝屋川市民の健康のためにぜひご尽力を賜りますように節にお願いを申し上げます。

私ども行政といたしましても、今後とも市民の皆さん方の健康でそして生き生きと生活していけるような政策をどんどん推進いたしまして、いつも私が申し上げております元気都市寝屋川の実現に向かって努力したい、このように考えております。

60年の歴史、署名の多さに驚き

寝屋川市医師会 早川 貫治 会長

思い出しますのは、この寝屋川市の地に60年にも近い関西医科大学附属香里病院の地域医療、これが閉鎖になるという話をお聞きした時に先程お話がありました前宮崎医師会長先生とともに、当時私も副会長をしておりましたが緊急に理事会を招集しました。



その中で大変なことになるということで、これは本当に三師会ともども一緒に何とかしなければならないということで、理事会全員一致のもとで署名活動をした次第でございます。実際署名を開始しまして、恥ずかしい話ではありますが、医師会、今までいろんな署名をしまいましたが、はっきり言わせてなかなか集まりませんでした。しかし、この附属香里病院の廃止、存続を願う署名に関しましては本当に私ども、今までかつてなかった勢いで患者さんの方からどんどんしていただき、前宮崎会長、私はじめ、本当に毎日のように医師会事務局に、今日は何名、今日は何名、と事務の者も驚くほど市民の反応がございました。やはり、60年の歴史はここに本当に地についた香里病院の医療活動の賜物だというふうに感心しております。

また17年12月をもって一旦閉院ということでございましたけれども、本当に予想よりも早い4年6ヶ月に渡りまして、本日竣工を迎えられたことは私ども寝屋川市医師会会員はじめ、寝屋川市民の本当に待ちに待った日でございます。これからは今までの諸先輩方の努力を無にしない、それ以上の発展をするために、今後、高山院長はじめ、私どもも協力しまして、この市民病院のない寝屋川市の地に、地についた地域医療をますますご発展、向上していくために努力をしていきたいというふうに考えまして、本日私の挨拶とさせていただきます。

写真で見る香里病院

長蛇の列 一般市民を対象にした6月5日の内覧会には予想を超える368名が来院



竣工式での神事の様

名 称	関西医科大学香里病院		
設 置 者	学校法人関西医科大学		
所 在 地	〒572-8551 寝屋川市香里本通町8番45号 TEL.072-832-5321 FAX.072-832-9534		
開設年月日	平成22年6月1日		
敷 地 面 積	4,033㎡	延床面積	15,216㎡
診 療 科 目	内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、婦人科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科		
病 床 数	200床（一般病床）		

7月1日から診療開始

香里病院は、7月1日(木)から診療を開始しました。京阪香里園駅と歩行者デッキで直結した駅前という利便性を活かし働く人にも健康をサポートできるような5日からは夕方診療を行っています。内科と小児科は、月～金曜日の平日、乳腺外科は月曜日、婦人科は火・金曜日の診療です。

香里病院の特徴は、透析センター(30床)・外来化学療法室があること。また、乳腺外来や7階に女性専用病棟を設けていることは、女性に優しい病院ともいえます。

地域に開かれた大学病院としての役割を、より積極的に進め、プライマリーケアから高度専門の医療機能を有する病院を目指しています。医学生や卒後の医師をはじめとした医療人の臨床教育の機能も担っています。

開院初日に来院した患者さんの一人は「待ちに待っていました。これで安心です」と胸をなでおろす。「きれいな病院。是非診察に来ます」と下見の方も多くいました。



開院初日の外来ホール風景



30床を有する透析センター

イメージキャラクター「KORIちゃん」



香里病院では、京阪香里園駅かほりまちにちなんだ桜をモチーフとしたやさしいキャラクターのKORIちゃんを香里病院の犬飼尚子さんのデザインにより制作、今後、案内パンフレットなどにも挿入、みんなに親しまれる病院の一助になればと期待されています。産学連携的財産統括室より、商標登録の出願中です。



CT装置



外来化学療法室

外部資金獲得に向け企画・立案と総合調整

6月に教育研究基盤整備企画室を設置

室長 伊藤 誠二

医学分野における教育研究の将来動向や関連する補助事業等の情報を収集し分析することにより、私立大学等経常費補助金等を含む外部資金をより多く獲得したうえで、中長期計画の完遂は基より教育・研究環境の整備・活性化を図るため、その施策を企画・立案・総合調整することを目的に、2010年6月「教育研究基盤整備企画室」が設置され、「経営企画室」、「施設整備企画室」とともに、常任理事会直轄の組織として活動を開始いたしました。

本学では、2008年6月創立80周年を迎え、「中長期経営ビジョン」が策定されましたが、“アクション2015 行動する関西医大”のネーミングで教育・研究、施設整備、財政、人材育成等6領域について具体的な目標を設定され、現在、その実現に向けた作業が着実に進行しています。

例えば、施設整備では、7月1日の新香里病院開院に引続き、平成25年4月には学舎・研究棟他の枚方地区への移転・統合が予定されていますが、教育・研究に直接関わるソフト・ハード面を充実・活性化も大変重要な事項と考えております。

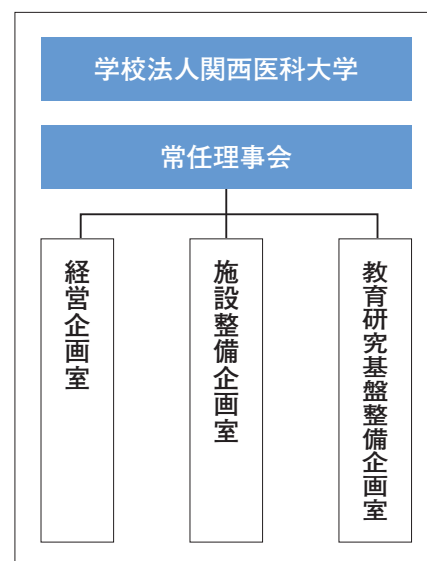
しかし、私立大学の恒常的経費等に対して交付される文部科学省の「私立大学等経常費補助金」についても、国家予算が年次的に削減されていることに加え、科学研究費補助金などの公的競争的資金や民間等助成財団による研究助成金などの獲得競争は、より一層厳しくなっております。

このような状況を勘案し、中長期計画の完遂は基より、教育・研究活動の活性化を目指す「教育研究基盤整備企画室」では、基礎となる健全で安定した経営環境の確保を具現化するため、「外部資金獲得戦略会議」を設置し、副学長や学長指名の委員により、企画、立案した施策を精査し、将来の動向を見据え、方針を策定していく予定です。

しかしながら、企画・立案した施策は、関連する教職員全員のご理解・ご協力なくして実現させることはできません。皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、各種助成金の申請等に関するご相談や経常費補助金獲得の妙案等ございましたら、ご遠慮なくご提案いただきますようお願いいたします。

(内線：81-2222)



将来への経営戦略を展望

本法人では、8月3日(火)開催された常任理事会において、3つの理事長直轄作業部会と4つの常任理事会指定プロジェクトチームを設置することが承認されました。山下敏夫理事長の就任を機に将来の経営戦略に資することを目的に設置、平成22年度事業推進プロジェクトチームとして既に活動をはじめています。各推進プロジェクトチームは、下記のとおりです。

【理事長直轄作業部会】

- ① 附属3病院物流一元化作業部会
 - ・目的 附属3病院の統括購入による医療経費の削減見直し
 - ・部会長 澤田敏理事
- ② 大学(法人)支出削減作業部会
 - ・目的 支出削減にかかる大学全体としての取組
 - ・部会長 松田公志教授
- ③ 地域医療促進作業部会
 - ・目的 各部署を横断した地域医療対策の全学的な促進

プロジェクトチーム設置

- ・部会長 高橋伯夫教授
- 【常任理事会指定プロジェクトチーム(JPT)】
- ① 人事給与制度改革推進JPT
 - ・目的 改革計画の迅速推進
 - ・委員長 神崎秀陽理事
- ② 人材育成トータルプラン策定JPT
 - ・目的 人材育成中長期戦略の策定
 - ・委員長 神崎秀陽理事
- ③ 会議体合理化推進JPT
 - ・目的 会議体の簡素化・効率化
 - ・大学班 委員長 伊藤誠二理事
 - ・病院班 委員長 今村洋二理事
 - ・法人班 委員長 神崎秀陽理事
- ④ 平成25年度法人組織再編計画JPT
 - ・目的 キャンパス統合後の法人組織・人員配置計画策定
 - ・委員長 新宮興理事

法人

就 任 の 挨 拶

幹細胞生物学を応用した新しいがん治療を

病理学第一講座教授 上野 博夫



このたび池原進教授の後任として病理学第一講座を担当させて頂く事になりました。本講座は池原先生を中心として20世紀COEの拠点として国家レベルの研究プロジェクトが行われて来た輝かしい教室であり、その講座を引き継ぐ

重責に身も引き締まる思いであります。

さて、私は平成3年に東大医学部を卒業した後、約9年間東大第3内科血液グループ(後の血液・腫瘍内科)に所属しておりました。当時の私は臨床医として、現在のがん治療がまだまだ患者さんの負担の大きい副作用の強いものである事に大きなストレスを感じており、何か新しい治療法が開発できないものかと考えておりました。そこで基礎医学研究者としてbasicな細胞生物学、幹細胞生物学およびそれを応用した新しいがん治療法の開発を志すことと致しました。

その後、国立がんセンター研究所を経て平成15年からスタンフォード大学病理発生学教室のIrving L. Weiss-man教授(現スタンフォード大学幹細胞再生医学研究所所長)の研究室に留学しました。幹細胞研究は臨床に近い領域で日本ではM.D.(医学部院卒)研究者が行う事が多いのですが、欧米では、Ph.D.(理学部薬学部院卒)研究者がほとんどで、学部学生も含め20そこそこから30代前半の若者達が活発に研究活動を行っていました。彼らのほとんどは日本にいる同世代の若者と何ら変わらない極々普通の若者達でしたが、中には突拍子もない発想で一獲千金的な実験を思いつき喜々としてやっている様な山っ気の強い若者も時々いて、こうした若者と話をするのはとても刺激的でした。日本人M.D.留学生は留学が遅いこともあり、やや欧米の若者達に圧倒され気味な様子を見るにつけ、

もっと柔軟な発想とチャレンジ精神を兼ね備えた日本の若者がどんどん海外を経験する事で日本の医学界を活性化できないものかと考えさせられました。

さて、私も周囲の山っ気の多い若者達に影響を受けたのか、今まで使った事のない脳の領域に汗をかく様な新しい研究に取り組んできました。没頭している内に気がついたら7年もの月日が経過し、子供が二人生まれていました。先行きに不安を覚えないでも無かった訳ですが、来る日も来る日もからりと晴れているカリフォルニアの空を見ると、まあ何とかなるかと何の根拠もなく思ってしまう様なところがありました。しかし、せっかく自分が培ったものを何とか日本の若者達に伝える方法はないものかと日々思う様になり、日本での就職先を探していたところ、今回縁あって、本学の教員として採用して頂く事ができました。

私を選んで下さった関西医大の先生方に心より感謝致しますとともに、是非関西医大の若い先生方と柔軟な発想でリスクを恐れずに新しい病理学を目指して研鑽を積んでいきたいと考えております。

寄付金

施設設備整備拡充事業資金へご寄付いただきました方々のご芳名を掲載して感謝の意を表します。平成22年5~7月分(8月1日現在)

<個人>

相澤眞澄夫 様	志水 久子 様
市川 良之 様	谷 保博 様
岡村 芳信 様	柘植 勇人 様
川田喜代子 様	藤田 成康 様
神部 賢一 様	三宅 啓文 様
小橋 裕司 様	柚木園豊子 様
	匿名 2件

— 略 歴 —

うえの ひろお
上野 博夫 教授

平成3年 東京大学医学部医学科 卒業
平成7年 東京大学大学院医学系研究科修了
医学博士取得
平成7年 東京大学医学部附属病院第三内科医員
(血液・腫瘍内科)
平成10年 日本学術振興会 特別研究員
平成12年 国立がんセンター研究所
ウィルス部長
平成15年 日本学術振興会海外特別研究員
スタンフォード大学病理発生学
Visiting Scholar
平成17年 スタンフォード大学 幹細胞再生医学研究
所 Research Associate
平成21年 スタンフォード大学 幹細胞再生医学研究
所 Senior Research Scientist
平成22年 関西医科大学 病理学第一講座 教授
現在に至る

牧野グラウンド設置工事など始まる

枚方新学舎建設に伴う先行工事として牧野グラウンド設置工事は既に始まっており、9月からは附属枚方病院仮設駐車場設置及び駐車場棟設置工事を行います。

牧野グラウンドの工事は、牧野キャンパス東側(旧看専学校跡地)に枚方の代替グラウンドを設置するので、工期は10月15日迄の予定。枚方の駐車場設置工事は、グラウンドに隣接する第2駐車場を枚方病院南側の第1駐車場に移設、グラウンドの一部を仮設駐車場として使用できるようにします。工事は9月1日から9月19日まで。また、枚方グラウンドの仮設駐車場を使用している間に枚方病院の駐車場棟設置工事に着手します。駐車場棟の規模は3層4段の立体駐車場、工期は9月21日から翌年の1月31日迄を予定しています。

大 学

共同研究講座 幹細胞異常症学とは

名誉教授 池原 進

私は、本年3月末で定年退職をしましたが、大塚製薬株式会社の御好意によりまして、4月より、共同研究講座 幹細胞異常症学を担当することになりました。

2号館の3階から6階に部屋を移し、9人の教室員と新講座を開設する運びとなりました。スタッフも若返り、朝早くから夜遅くまで、研究に情熱をそそいでおります。

“幹細胞異常症学”という言葉は、耳慣れないと思われるので、わかりやすく、説明させていただきます。

昨今、iPSを初めとして幹細胞という言葉は、一般の方々も良くご存知と思いますが、幹細胞の定義は、自分で自分をつくる能力があるだけでなく、種々の細胞へと分化する能力がある細胞を幹細胞と呼んでいます。

私共は、種々の病気、特に難病と呼ばれている疾患は、この幹細胞の異常に起因するもので、正常の幹細胞と置換する骨髄移植が根本治療であることを25年前に、発見しました。この幹細胞には、造血幹細胞と間葉系幹細胞の2種類があり、前者からは、白血球、リンパ球、赤血球、血小板等がつくられ、後者からは、体の中の種々の細胞、例えば、骨、軟骨、筋肉などの支持組織へと分化することがわかっています。

私共は、関節リウマチ、潰瘍性大腸炎、クローン病等の自己免疫疾患は前者、すなわち造血幹細胞の異常により、発症するもので、骨粗鬆症や肺気腫のような加齢に伴って発症してくる難病は、後者、すなわち間葉系幹細胞の異常に基づくのではないかと考えており

ます。このように幹細胞異常症学という分野は、裾野が広く、ほとんどの難病の根治療法に直結するものと考えています。

造血幹細胞は“種”と呼ばれ、間葉系幹細胞は“畑”と呼ばれていますが、この両者を正常のものと置換する方法を私共は開発しました。すなわち、骨髄内骨髄移植方法です。この方法では、この両者を骨髄内に直接注入するため、効率良く、種も畑も生着し、この両者が刺激しあって、種々の細胞への増殖・分化が促進するのです。

今後、この骨髄内骨髄移植法を用いて、種々の難病の治療法の確立のために、努力をつづける覚悟です。皆様から厚い御支援を賜りますようお願い申し上げます。



池原名誉教授(前列左から二人目)と共同研究講座のスタッフ

平成23年度入学試験期日・選抜実施要項が決定

平成23年度本学入学者選抜試験の実施期日及び選抜方法が、下記のとおり決定しました。

【推薦入学試験】

〔募集人員〕

特別枠 約10名

〔願書受付期間〕

平成22年11月1日(月)～11月10日(水) (消印有効)

〔選抜方法〕

第1次試験

書類選考

第2次試験 (第1次試験の合格者に対して実施)

- (1) 小論文
- (2) 適性検査 (数理的問題、英文問題も含む)
- (3) 面接

〔実施期日〕

平成22年11月21日(日) (第2次試験)

〔試験会場〕

第2次試験：専門部学舎

〔合格発表日〕

第1次試験：平成22年11月18日(木)

第2次試験：平成22年11月26日(金)

【一般入学試験】

〔募集人員〕

一般枠 約100名、特別枠 若干名募集する場合がある。

〔願書受付期間〕

平成22年12月13日(月)～平成23年1月20日(木) (消印有効)

〔選抜方法〕

第1次試験

- (1) 数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C
数学Bのうち「統計とコンピュータ」「数値計算とコンピュータ」を除く。
- (2) 理科：物理Ⅰ・物理Ⅱ、化学Ⅰ・化学Ⅱ、生物Ⅰ・生物Ⅱの3科目から2科目選択 (試験場で問題配付後、選択)
物理Ⅱのうち「原子と原子核」を出題する場合には、選択問題とする。
- (3) 外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング
- (4) 小論文

第2次試験 (第1次試験合格者に対して実施)

面接

〔実施期日〕

第1次試験：平成23年1月29日(土)

第2次試験：平成23年2月12日(土)

〔試験会場〕

第1次試験：インテックス大阪

第2次試験：専門部学舎

〔合格発表日〕

第1次試験：平成23年2月8日(火)

第2次試験：平成23年2月17日(木)

(詳細は募集要項参照)

ホームページ <http://www.kmu.ac.jp/>

学 事

読経が流れるなか厳かに解剖体追悼法要、山下学長が追悼の辞

第80回解剖体追悼法要が5月15日(土)午前10時から、京都市東山区の臨濟宗大本山建仁寺において営まれました。山下敏夫学長を施主に献体関係者ご遺族121組260名、白菊会会員24名、教職員、学生ら約200名が参列、僧侶による読経が流れるなか厳かに執り行われました。

山下学長の「追悼の辞」に続いて参列者全員が焼香し、献体された故人の篤志に感謝を捧げ、ご冥福をお祈りしました。同法要は、医学教育・研究及び診療の発展のために献体された御霊に対し、ご遺族を始めとする関係者の皆様にご臨席いただき、教職員、学生一同でご冥福をお祈りするもので、毎年5月15日に実施されています。

法要終了後、引き続き同所において午前11時から遺骨返還式が行われ、13体のご遺骨の返還ならびに感謝状の贈呈がありました。



追悼の辞を捧げる山下学長

立命館大との第2回戦略的産学連携支援プログラムFDを開催



講演する三重大・西村教授

第2回大学教育充実のための戦略的産学連携支援プログラムFD(ブレインメディカルリサーチセンター共催)が7月23日(金)午後1時から南館臨床講堂で、本学教職員29名、立命館大学の教職員22名の合計51名が参加して開催されました。伊藤誠二副学長による開催挨拶の後、総合研究施設見学、講演2題、戦略的産学連携事業の取り組み状況報告などがありました。最後に立命館大学・谷口吉弘総合理工学院長の閉会の挨拶で幕を閉じました。講演内容は、次のとおり。

講演1:「ライフサイエンス分野における人材育成と産学連携」

三重大学 社会連携推進戦略室長 西村訓弘教授

講演2:「大学発ベンチャー240社及び産学官連携の取材を通してみた、大学におけるライフサイエンス研究のあり方」

日経BPコンサルティング制作本部企画委員 西本一郎氏

新任教員ワークショップ 教員32名、参加者には修了証を授与



グループに分かれて討議

新任教員教育ワークショップは、6月12日(土)午前9時から専門部学舎にて開催されました。澤田敏副学長、藪田精昭専門部教務部長、タスクフォース6名および教員32名が参加しました。

「本学のカリキュラムについて」と題した藪田教務部長の講演の後、個別テーマ「本学のチュートリアル教育」「本学のOSCE、Advanced OSCE」「本学のクリニカル・クラークシップ」の講演がありました。午後からは、チュートリアル、クリニカル・クラークシップ、OSCEのグループに分かれて討議、発表が行われ、ワークショップ終了後、参加者には修了証が授与されました。

医学生としての態度・人間性教育をテーマに 医学教育ワークショップ

7月10日(土)附属枚方病院において、第28回関西医科大学医学教育ワークショップが開催されました。今回の医学教育ワークショップは、「医学生としての態度・人間性教育－医療人としてのprofessionalism－」をテーマに伊藤誠二副学長をはじめ藪田精昭教務部長、タスクフォース6名、学生19名を含めて約70名が参加しました。

また、岐阜大学医学教育開発研究センター藤崎和彦教授の「岐阜大学における医学生の態度・人間性教育の取り組み」と題した特別講演や、各グループに分かれて活発な討議や意見交換が行われ、今後、具体化できる提案を、実現に向けて検討していく事になりました。



特別講演の岐阜大・藤崎教授

学 事

今年からアメリカの3施設増える 留学の参考にと熱心に質問

「国外臨床実習の成果」報告会 6学年の9名が体験談を語る

「国外臨床実習の成果」報告会が7月6日(火)午後6時から専門部学舎第2講堂で開催されました。今年3月末から5月にかけて約4週間の実習を終えた6学年9名が英語でスクリーンの映像を示しながら、それぞれの体験談を報告しました。

開会の挨拶では、山下敏夫学長が「国外実習施設を今年からアメリカの3施設(コロンビア大学、スタンフォード大学、バーモント大学)を増やした」「これからもっと国際化を推進するため、枚方新学舎には常設の国際交流センターを設置する」などの考えを発表されました。続いて菌田精昭教務部長が英語で挨拶、実習施設のバーモント大学を世話された国外臨床実習担当・友田幸一教授(耳鼻咽喉科学講座)の司会で報告会が進められました。聴講していた下級生は、留学の参考にしたいとの思いからか、熱心に質問をしていました。

成果報告した6学年9名は、以下の通り。

[ドイツ]レーバークーゼン総合病院
佐藤良美さん、三好祐史君

[マレーシア]国立循環器病センター

池田亜貴子さん、園田夏子さん

[アメリカ]コロンビア大学

平雄一郎君

[アメリカ]スタンフォード大学

田中真沙美さん、吉岡晶子さん

[アメリカ]バーモント大学

佐々木優君、藤原敦子さん



実習の成果を報告する学生

第29回白菊会総会を開催、卒寿の会員に記念品を贈呈



出席者全員で記念撮影

第29回白菊会総会が6月19日(土)午後1時から、附属滝井病院本館6階大講堂において、実施されました。白菊会会員約230名が出席、また、本学からも山下敏夫学長をはじめ、解剖学・病理学講座関係の教員が出席しました。

総会では、黙祷、コールクライス部学生による「白菊会の歌」斉唱、山下学長挨拶、平野利夫白菊会会長挨拶、役員紹介の後、議事に入り、白菊会行事、会計報告、監査報告、卒寿を迎えられた会員への記念品贈呈が行われました。最後に、出席者で記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中で閉会となりました。

新入生が1泊2日の合宿研修

第1学年の合宿研修が、5月12日から13日(1泊2日)の日程で、学生112名、山下敏夫学長をはじめ教職員25名の参加を得て実施されました。

なお、昨年までの「合歓の郷」から場所と内容を変更して、今年は「枚方療育園」「ATCエイジレスセンター」を見学実習後、「ホテルコスモスクエア国際交流センター」でディスカッション、レクリエーションを行いました。

医学部における6年間の過ごし方を考え、討論や活動を通して教職員・友人とのコミュニケーションを一層図れ、大きな成果を得ることができました。



車椅子体験



レクリエーション風景

▼全員で記念撮影



学 事

研究助成金等受贈者(採択)一覧

平成21年度に募集のあった各種助成財団による研究助成金等を下記の研究者が贈呈されました。

No.1

研究助成法人・団体等	受 贈 者	研 究 課 題 等	助成額等
(財)メンタルヘルス岡本記念財団 平成21年度研究・活動助成	小児科学講座 石崎 優子 講師	難病・心身障害・発達障害を持つ患児ときょうだい・保護者の心の健康づくりのための講演会と地域におけるサポートネットワーク構築の試み	30万円
小林孫兵衛記念医学振興財団 平成21年度研究助成金	解剖学第一講座 森 徹自 講師	てんかんの発症機序に関する細胞生物学的な基礎研究	50万円
(財)喫煙科学研究財団 平成21年度研究助成金	内科学第二講座 西川 光重 教授	脂肪細胞における甲状腺ホルモン代謝と作用に及ぼす喫煙の影響	200万円
日本臨床検査医学会 学術推進プロジェクト研究助成金	臨床検査医学講座 吉賀 正亨 助教	高血圧発症機序における新規内因性ジギタリスの臨床検査医学的研究	50万円
(財)テルモ科学技術振興財団 平成21年度一般研究助成	衛生学講座 藺田 精昭 教授	ヒトES細胞様組織幹細胞の同定と移植・再生医療への応用	100万円
日本医師会 平成21年度医学研究助成費	内科学第一講座 伊藤 量基 講師	I型インターフェロン制御を目的としたトロンボモジュリンの抗炎症作用機序の解明	150万円
公益信託 日本白血病研究基金 平成21年度助成金	分子遺伝学部門 木梨 達雄 教授	接着制御分子破綻によるB細胞性リンホーマの発症機構についての解析	50万円
(財)クリタ水・環境科学振興財団 平成21年度助成金	物理学教室 楠本(竹本)邦子 講師	軟X線顕微鏡による琵琶湖のSynechococcus由来の炭素量の定量化	60万円
(財)大阪癌研究会 平成21年度一般学術研究助成金	衛生学講座 植村 靖史 講師	TAP遺伝子欠損樹状細胞を用いて非自己MHC-腫瘍抗原複合体を特異的に認識する細胞傷害性T細胞を効率よく誘導する方法の開発	50万円
(財)森永奉仕会 平成20年度研究奨励金	小児科学講座 野田 幸弘 助教	小児貧血の鑑別における血清ヘプシジン濃度の臨床的有用性に関する検討	45万円
(財)成長科学協会 平成21年度研究助成	生理学第一講座 岡田 誠剛 講師	ソマトトロフ特異的ウイルスベクターの開発	50万円
(財)がん集学的治療研究財団 研究助成金	外科学講座 岩本 慈能 助教	Stage III (Dukes' C) 結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのカペシタビンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相臨床試験	70万円
(財)持田記念医学薬学振興財団 第27回研究助成金	生体情報部門 松田 達志 准教授	免疫系におけるJNK・p38MAPK経路の生理機能の解明	200万円
(財)大阪コミュニティ財団 がん研究助成	病理学第二講座 塚 貴司 講師	がん研究 若手と高齢での妊娠期ホルモン環境を模倣した短期エストロゲン・プロゲステロン処置による乳癌発生に対する乳腺脂肪酸組成の影響	100万円
(財)先進医薬研究振興財団 平成21年度精神薬療分野萌芽研究助成金	精神神経科学講座 加藤 正樹 講師	遺伝子情報に基づく薬剤選択アルゴリズムによるうつ病システムティック治療実践研究	100万円
日本臨床精神神経薬理学会 2009年度日本臨床精神神経薬理学会ポール・ヤンセン賞	精神神経科学講座 加藤 正樹 講師	うつ病患者における、抗うつ薬の薬理遺伝研究—メタアナリシス—	80万円
(財)内視鏡医学研究振興財団 平成21年度研究助成金	内科学第三講座 西尾 彰功 准教授	初期大腸鋸歯状病変における遺伝子変異と内視鏡的診断の可能性の検討	50万円
(財)大阪対ガン協会 平成21年度ガン研究助成奨励金	形成外科学講座 覚道 奈津子 助教	基底細胞癌におけるKi-67、表皮成長因子受容体の免疫組織化学的検討	30万円

学 事

研究助成金等受贈者(採択)一覧

No.2

研究助成法人・団体等	受 贈 者	研 究 課 題 等	助成額等
(財)喫煙科学研究財団 平成21年度研究助成金	産科学婦人科学講座 安田 勝彦 准教授	妊娠時の子宮筋収縮調節機構とそれに及ぼす喫煙の影響	250万円
(財)藤井節郎記念大阪基礎医学 研究奨励会 平成21年度研究助成金	外科学講座 海堀 昌樹 講師	骨髄幹細胞を用いた肝再生療法-自己骨髄細胞を用いた肝切除後の肝再生療法の基礎的検討-	200万円
(財)日本リディアオリリー協会	形成外科学講座 覚道 奈津子 助教	臨床実用化に向けた自己血由来多血小板血漿(Plateles Rich Plasma;PRP)精製法の開発とそのヒト線維芽細胞に対する効果の研究	70万円
Human Frontier Science Program	生理学第二講座 中村 加枝 教授	Serotonin and decision making	917万円

平成21年度JST事業採択一覧

平成21年度JST事業に採択されたのは、以下の10事業・総額は1億434万8700円です。

事業名	研究課題名	研究代表者	研究分担者	直接経費	間接経費
戦略的創造研究推進事業 さきがけ	ドパミン-セロトニン相互抑制 による報酬・嫌悪情報処理機構	生理学第二講座 中村 加枝 教授	—	1960万円	588万円
産学共同シーズイノベーション 化事業 シーズ育成 成ステージ	弾性線維形成タンパク質を標的 とした疾患診断、治療薬の開発	薬理学講座 中邨 智之 教授	—	700万円	105万円
良いシーズをつなぐ知の 連携システム つなぐし くみ	マイクロバブル化炭酸ガスを使用 したエックス線診断用造影剤 の開発	放射線科学講座 狩谷 秀治 講師	—	100万円	10万円
シーズ発掘試験	プロテアーゼ活性化受容体の機能 に着目した新規心不全治療薬 の開発	薬理学講座 大谷 ひとみ 講師	—	170万円	30万円
シーズ発掘試験	mTOR経路を標的とした新規樹 状細胞機能制御法の開発	附属生命医学研究所 生体情報部門 松田 達志 准教授	—	170万円	30万円
産学イノベーション加速 事業(先端計測分析技術・機器 開発事業)	質量顕微鏡法における空間特異 的情報検出ソフトウェアの開発	癌研究会、 島津製作所、 浜松医大 他	医化学講座 矢尾 育子 講師	207万円	62.1万円
文部科学省橋渡し研究支 援推進プログラムスー パー特区研究	低侵襲手術支援システムの実用 化開発と臨床研究	浜松医大 他	耳鼻咽喉科学講座 友田 幸一 教授	231.9万円	69.57万円
戦略的創造研究推進事業 CREST	接着制御シグナルの破綻と自己 免疫疾患	附属生命医学研究所 分子遺伝情報部門 木梨 達雄 教授	内科学第三講座 岡崎 和一 教授	4210万円	1263万円
企業研究者活用型推進事業	被験者にストレスを与えない小 型・軽量脳波計の開発	生理学第二講座 中村 加枝 教授	(株)プロアシスト	392万円	117.6万円
A・STEP シーズ顕在化	新規な神経障害性疼痛治療薬の 合成技術の開発とその初期安全 性の評価	(株)マイクロン、 岐阜大学、 大阪医科大学	医化学講座 伊藤 誠二 教授	14.4万円	4.3万円

病 院

附属枚方病院

医療事故の外部調査委員会設置など
4大学で情報の共有図り医療安全を

第8回近畿私立大学病院医療安全連絡会

5月28日(金)午後3時から13階合同カンファレンスルームと講堂において、近畿私立大学病院医療安全連絡会が開催されました。

この連絡会は、近畿の4つの私立大学病院がさまざまな情報を共有することで医療安全の向上を図ることを目的として、年2回開催されており、今回が8回目となりますが、今年度は当院が幹事にあたりました。会議の前半では「医療事故外部調査委員会設置協力に関する申し合わせ(案)」などが検討され、後半では「医療安全」、「感染対策」、「医薬品」、「医療機器」、「医療相談」に分かれて担当者間で情報交換が行われました。

「こころくん」 & 「めぐみちゃん」



昨年秋から「親しまれる病院」「皆様と共に歩む病院」として病院のイメージキャラクターを募集、職員に投票いただきましたが、優秀作品について、さらに専門業者により修正された結果、最終的に枚方病院のイメージキャラクターとして、「こころくん」と「めぐみちゃん」の2つのキャラクターが誕生しました。

枚方病院では、今後、商標登録のうえ、あらゆる媒体に使用して、皆さんに親しまれるイメージキャラクターとして育てていく予定です。

枚方市医師会との懇談・懇親会 5年目にしてようやく実現



枚方市医師会との懇談会

6月5日(土)午後4時から13階講堂において、枚方市医師会と本学医師会との懇談・懇親会が開催されました。開院以来、枚方市医師会に働きかけてきましたが、5年目を迎え、ようやく実現したイベントです。

第1部の懇談会では山下敏夫理事長の挨拶の後、権雅憲副院長(地域医療連携部長)から附属枚方病院の診療概要が説明され、各科の診療責任者から詳細な説明が行われました。また高山康夫香里病院長からは香里病院の概要説明があり、こちらも各診療科の先生方から詳細な説明が行われました。

引き続き、第2部として合同カンファレンスルームで懇親会が執り行われましたが、地域の先生方との親睦が図られた有意義な1日となりました。

6月から心療内科の診察を開始

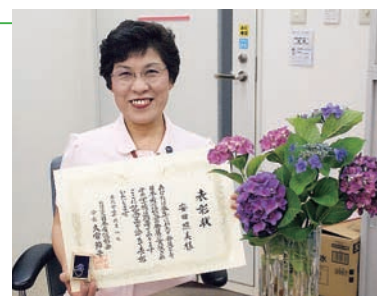
附属枚方病院では、6月1日(火)から心療内科の診療を開始しました。心療内科学講座の拠点附属滝井病院から当院に移したことにより、新しく診療科を設置したもので、診療場所は、3階のブレインメディカ

ル部門です。

心療内科学講座・福永幹彦教授をはじめ、医局員の皆さんが枚方に引っ越してきて、部長室や合同医局にデスクも増設するなど整備工事が行われました。

安田看護部長が日本看護協会長を受賞

6月8日から3日間、横浜アリーナにおいて平成22年度日本看護協会通常総会が開催されました。その中で、長年にわたり協会活動に貢献した方々に対して日本看護協会長表彰があり、当院の安田照美看護部長がその一人として表彰されました。=写真は、表彰状を手に喜びの安田看護部長



病 院

附属滝井病院

更なる連携の強化を 鶴見緑地病院と「地域連携の会」

7月12日(月)午後6時から守口ロイヤルパインズホテルにおいて、当院入院患者の転院先病院として、特にお世話になっている鶴見緑地病院と「地域連携の会」を開催しました。

鶴見緑地病院からは水野郁子理事長、濱田智志病院長、当院からは岩坂壽二病院長、高田秀穂地域医療連携室長をはじめ、両院の各診療科医師、看護部、事務部総勢58名の参加がありました。

両病院長のご挨拶の後、岩坂病院長から水野理事長へ感謝状の贈呈式が執り行われ、感謝の意を表されました。

また、特別講演として、臨床検査医学講座・高橋伯

夫教授から、「保険診療における臨床検査の活用法」をテーマに講演があり、続いて、両院の各診療科医師から診療部門の紹介がありました。

当会は、在院日数の多い患者、亜急性期の患者等の転院・受け入れについて、大変有意義な意見交換が行われ、更なる連携強化が図られた一日となりました。=写真は、鶴見緑地病院の水野理事長に感謝状を渡される岩坂病院長



第8回肝臓病教室 「メタボリックシンドロームと肝臓病」テーマに



7月3日(土)午後1時30分から南館7階大会議室において第8回肝臓病教室を開催(写真)しました。外来患者を中心に参加者は雨天にもかかわらず、16名の方が熱心に耳を傾けていました。

テーマは「メタボリックシンドロームと肝臓病」で、講演内容は①「健康長寿への秘訣は腹7分目」循環器内科・大谷肇准教授②「ストレッチ体操」「効果的な運動の秘訣」健康科学センター・久保田真由美運動指導士③「メタボで怖い脂肪肝」消化器肝臓内科・是枝ちづ助教④「ダイエットに成功する食べ方の基本7カ条」栄養管理部・細見恭子管理栄養士の4題でした。次回第9回肝臓病教室は、11月6日(土)を予定しています。

北館5階に「心とからだの発達支援センター」を設置

附属滝井病院では、この4月から北館5階「心とからだの発達支援センター」にて、発達障害児の発達と心理の評価ならびに療育を行っています。幼児から学齢期のお子さんの発達の特性を評価し、お子さんに合わせた対応を、小児科医やコ・メディカルスタッフが指導してします。

この事業は自費診療、完全予約制です。発達支援外来で自費診療を受けた同じ日に、保険診療を受けることはできません。

発達支援外来での発達評価・診断と療育を希望される方は、まず、こども館を受診していただきます(保険診療)。必要に応じて脳波検査やMRIなどの検査を行い、発達障害以外の疾患の有無を調べた後に、発達支援外来(自費診療のみ)の初診を予約します。

【事業内容】

1. 面接・検査
 - A. 発達評価・診断
 - B. 初回発達診断後の定期検査
 - C. 追加の発達・心理検査
 - D. 発達障害児の就学前評価

2. 診察・指導・療育
 - A. 医師の診察、面談
 - B. 作業療法士による療育
 - C. 学校、幼稚園・保育園関係など保護者以外の方へのご説明
3. デイケア事業
4. 保護者、教員向け講座
5. 発達障害児のペアレントトレーニング
 デイケア事業、保護者、教員向け講座、発達障害児のペアレントトレーニング開催の詳細は決定次第、ホームページで紹介します。

納涼会 笑いでひと時楽しむ

7月17日(土)午後2時から本館6階大講堂において「笑いがある明るい元気」をキャッチフレーズに納涼会が開催されました。

河内音頭・ジャグリング・バルーンアート・漫談で、123名の方が笑いのひと時を楽しまれました。

卒後臨床研修センター

9月に2回目の臨床研修合同説明会開催 5年生の方も参加を

平成23・24年度の研修医採用に向け9月11日(土)、今年度第2回目の臨床研修合同説明会を、大阪市北区中之島のリーガロイヤルホテルにて開催します。4月開催の説明会に参加できなかった方はもとより、平成24年度の採用に向け、5年生の方に参加を願っています。

説明会の内容は、附属枚方病院、附属滝井病院はもとより、今年7月に開院いたしました香里病院も加え、3つの病院の病院長による挨拶や研修センターの設備の紹介のほか、現役の1年目及び2年目の研修医から、体験談を語ってもらう予定です。

また、説明会終了後には懇親会を予定。現役研修医との交流や、医学生同士での情報交換等、歓談の場としてご利用いただければと思っております。是非、この機会に、本学各病院での臨床研修の良さを知ってもらい、将来の進路選択の参考にしてください。

なお、参加をご希望される方は、後記の卒後臨床研修センターまで、メールや電話等で、大学名、学年、

氏名をお知らせください。

日時、場所、申込先等は、次のとおり。

日時：平成22年9月11日(土)

説明会 15：00～

懇親会 17：00～(立食パーティ)

場所：リーガロイヤルホテル大阪

〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68

TEL：06-6448-1121/FAX：06-6448-4414

(京阪電車中之島線「中之島」駅直結)

申込み・問合せ先

関西医科大学卒後臨床研修センター(枚方)

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1

TEL：072-804-0101(内線(80)3800・3801)

072-804-2847・2848(直通)

FAX：072-804-2952

E-Mail：sotugori@hirakata.kmu.sc.jp

U R L：http://www.kmu.ac.jp/residency/

レジナビフェア2010 in 大阪に出展

本学ブースに多くの医学生・研修医

レジナビフェア2010 in大阪「研修病院合同説明会」が7月4日(日)にインテックス大阪1号館・2号館で開催されました。

今回のフェアは初期研修説明会と後期研修説明会との同時開催であり、北は北海道から南は九州・沖縄までの、基幹型臨床研修病院が単独や連合体として出展し、来場した医学生や研修医に対し自機関の良さをアピールしていました。

卒後臨床研修センターでは、附属の枚方及び滝井の両病院で合同ブースを出展し、研修センターのスタッフはもとより、初期研修1年目の研修医2名、2年目の研修医2名、及び後期研修1年目の専修医5名(3内科2名、外科1名、麻酔科2名)が出席し、来場された医学生や初期研修中の方に対し、本学の良さを熱心に説明しま

した。

今回のフェアでは来場者数は会場全体で医学生が約1,300名、研修医が約300名であり、本学のブースにはその内の医学生90名、研修医8名が来場され、興味深く説明を聞いてくださるとともに、多くの質問もされていました。

また、今回は救急医学科が、後期研修医募集のため独自で出展しており、ブースも隣同士であったため、お互いに来場者を紹介するなど有効な運営ができ、来場者にも好印象を与える結果になりました。

＝写真は、本学のブースに多くの医学生や研修医が訪れて相談する風景



平成23年度研修医採用試験

平成23年度年初期臨床研修医採用試験が下記日程で実施されました。受験者数は、昨年より6名多い118名でした。

実施日

筆記試験：平成22年7月18日(日)

面接試験：平成22年7月29日(木)

出願者数：120名(男子70名、女子50名)

(本学出身者90名、他大学出身者30名)

出身大学名(本学除く)

金沢医科大学、愛知医科大学、高知大学、藤田保健衛生大学、帝京大学、福岡大学、近畿大学、埼玉医

昨年より6名多かった受験生

科大学、大阪市立大学、滋賀医科大学、川崎医科大学、兵庫医科大学

受験者数：118名(男子68名、女子50名)

(本学出身者89名、他大学出身者29名)

募集定員

附属枚方病院プログラム 40名

附属枚方病院小児科重点プログラム 2名

附属枚方病院産婦人科重点プログラム 2名

附属滝井病院プログラム 8+1名

(大阪府から1名増員内示有り)

キャンドル手に“信頼される看護師”誓う



30期生77名が戴帽式で決意を新たに!



附属看護専門学校の戴帽式が、5月12日(水)午前10時から本校講堂において、關壽人学校長、塚原勇理事長、山下敏夫学長、徳永力雄常務理事はじめ教職員、保護者ら多数の関係者が出席して行われ、30期生77名が看護師を目指す決意を新

たにしました。

明りを消した講堂で、牛嶋百合子教務部長ら教員が一人ひとり純白のナースキャップをかぶせました。ろうそくを持った看護学生が「わが手に託された人々の幸のために身をささげん」とナイチンゲール誓詞を唱和しました。

学生らはともしたキャンドルを手に「患者さんや医療チームから信頼を得られる看護師を目指し学び続け

ていくことを誓います」と心に誓っていました

式典で關学校長は「看護という仕事を持つ崇高な職業的使命である、人の役に立ち、人に必要とされる仕事を目指すことについて改めて認識することが本儀式的目的です。より深い学習への決意を新たにしたい」とエールを送りました。=写真は、キャンドルを手に勢揃いした看護学生(上)と挨拶する關学校長(左)

戴帽式(たいぼうしき)看護師を目指す学生たちが、初めての病院実習に臨む直前に、教員が、ナースキャップを与え、看護師を目指すものとしての職業に対する意識を高め、またその責任の重さを自覚させるための儀式。通称、キャッピング(戴帽)ともいう。ナースキャップをつけてもらった戴帽生が、ナイチンゲール像から灯りを受け取り、そのキャンドルの明かりの中でナイチンゲール誓詞を朗読するものです。

自分たちの身は自分たちで守る

新入生が「ちかん撃退法」学ぶ

ちかん撃退法等防犯訓練講習会が5月18日(火)午後2時40分から附属看護専門学校講堂で開かれ、新入生が護身術を学びました。

府警本部、旭警察署の協力を得て毎年実施しているもので、「旭区内に於ける犯罪の発生状況」の話の後、ひたくり対策、ちかん対策の実演がありました。実技では、看護学生2名が1組になって訓練、自分たちの身は自分自身で守るんだとばかり、真剣に取り組んでいました。



府警の指導でちかん撃退法を学ぶ学生

オープンキャンパスに延べ255名が参加

今年も附属看護専門学校では、オープンキャンパスを3回開催しました。第1回目は、7月30日(金)で学生58名・保護者8名、第2回日の8月3日(火)は学生79名・保護者16名、第3回目8月10日(火)は学生80名・保護者14名がオープンキャンパスに参加されました。計3回の合計では、学生217名・保護者38名、総勢255名もの人が来学されたこととなります。参加者は、高校3年生

は当然ながら高校1～2年生や、近年は、社会人や男子学生も増え、主婦らの姿もありました。

いずれの日も午前10時から第6教室で本校の目的・理念、授業科目の説明、授業料、奨学金制度、施設紹介など2時間のプログラムの後、午後からは、希望者には附属枚方病院を見学してもらいました。附属枚方病院の見学者は、延べ73名でした。

平成23年度 入学試験期日・選抜実施要項が決定

平成23年度附属看護専門学校の入学試験実施期日及び選抜方法が、次のとおり決定しました。

看護学科(3年課程)

【推薦入学試験】

1. 募集人員 40名
指定校制 1校2名
2. 試験内容
 - ①学科試験
国語総合(漢文、古文含まず)・小論文
 - ②面接試験
3. 入学志願書受付期間
平成22年11月1日(月)～11月6日(土)
4. 入学試験日
学科・面接：平成22年11月20日(土)
5. 合格発表
平成22年11月27日(土)午前9時～午後1時まで

【一般入学試験】

[前期試験]

1. 募集人員 30名
2. 試験内容
 - ①学科試験
国語総合(漢文、古文含まず)・現代文
英語Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ
 - ②面接試験

3. 入学志願書受付期間
平成22年12月1日(水)～12月21日(火)
4. 入学試験日
学科：平成23年1月12日(水)
面接：平成23年1月13日(木)
5. 合格発表
平成23年1月21日(金)午前9時～午後5時まで

[後期試験]

1. 募集人員 10名
2. 試験内容
 - ①学科試験
国語総合(漢文・古文含まず)・現代文
英語Ⅰ・Ⅱ
 - ②面接試験
3. 入学志願書受付期間
平成23年1月31日(月)～2月10日(木)
4. 入学試験日
学科・面接：平成23年2月22日(火)
5. 合格発表
平成23年3月5日(土)午前9時～午後1時まで

※詳細は募集要項参照

ホームページ <http://www.kmu.ac.jp/nurscoll/>

DPC分析システム「EVE」を導入 滝井・枚方とも活用

滝井・枚方の両附属病院医事課から申請のあったDPC分析ソフト「EVE」が7月14日(水)に滝井病院、7月22日(木)には枚方病院に導入されました。

今後、滝井病院はこのシステムの活用方法として「チーム・イブ」を編成、枚方は「適切なDPCコーディングに関する委員会」の下部組織としてDPCコーディ

ングの適正化、医療の質指標、経営指標、他病院とのベンチマーク等に各診療科の先生方と一緒に分析、検討、審議できるチーム活動をしていきます。両チームへのご意見、ご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

キャンパス ニュース

教学懇談会 学生の要望に教員が回答、活発に意見交換

6月23日(水)午後6時から専門部学舎1号館5階大会議室において、本学の教育に関する学生との懇談会(教学懇談会)が開催されました。出席者は、各学年のクラス代表、教務委員、学館運営委員の学生20名、卒業生1名。教員は、山下敏夫学長はじめ、伊藤誠二・澤田敏の両副学長、藺田精昭(専門部)・藤井茂(教養部)の両教務部長、山田久夫(専門部)・中川淳(教養部)の両学生部長、各学年のクラスアドバイザーの14名に教養部、専門部の事務職員7名の合計42名でした。司会進行を学生が行い、各学年の大学に対する要望事項等を聞き、それに対して教員が回答するという形式で、終始和やかなうちにも活発な意見交換の場となりました。

まず、学生から、教務関連について、各学年のアンケート結果を基に、「授業アンケートの匿名化」「ICTの推進、WiFi環境の整備」「分属実習人数枠の撤廃」等の要望が出され、学館運営関連では、「無線LANの導入」や「生協、自治会室、国家試験対策室等の新学舎への設置」、5・6学年からは「研修・進路についての説明会」の要望がありました。また、卒業生からは、卒業試験が国家試験対策に役立った、まとめの講義がよかったという意見が出されました。更に、研修先に本学を選んで良かった理由として大学病院なので教育がしっかりしている、同期や先輩に何でも聞きやすい等の理由があげられました。

これらの要望に対して、教員からそれぞれに回答を行った他、実習時の知識量・レベルの低下や初期研修の定員、服装の乱れについての話がありました。最後に、学部事務部長から、近々新学舎の映像を見せる機会を作るとの発言があり、午後8時過ぎに閉会しました。学生の主要な要望事項および教員の回答・意見等は次の通り。

●教務関係

1. 授業評価アンケートの匿名化 (3学年)

無記名の時は、あまりにも無責任な内容があった。アンケートの内容が成績に不利益に働くことはないので、記入するなら大人として責任を持って堂々と記入してほしい。匿名化する予定はない。アンケートは学務課で出欠確認をした後に氏名とフリーコメントを切り離して、コメントを教員にフィードバックしている。

2. 学内のICTを進めIT分野に強い学生の育成およびWiFi環境を整備して全学生にiPadの配布を提案 (3学年)

iPadの配布はできないが、ICTを大学としても活用して在学生向けにも発信していきたい。枚方新学舎では、出欠管理・授業評価アンケートをIT化できるよう現在準備している。

※ICT…Information and Communication Technology(情報通信技術)

3. 3学年時の分属実習の人数枠をなくしてほしい (4学年)

教員数など各講座の事情があるため、人数枠の設定はやむを得ない。他大学では、分属実習を数ヶ月にわたって実施しているところもあり、非常に教育効果が高いので、現在、枚方移転後のカリキュラムを検討しているところだが、分属実習の時間延長などの見直しも検討したい。

●学館関係

講堂LANケーブルの差し込み口が壊れている。無線LANを設置してほしい。(3学年)

故障の際は、事務局に申し出てほしい。故障の原因も含めて対応したい。

無線LANの設置については、大学情報センターと検討して一番よい方法を検討したい。

●5・6学年

後期研修がよくわからない。5学年にも研修・進路についてアナウンスや説明会がほしい

今年から5学年にも9月の第2土曜日(11月に開催を予

定していたものを変更)と来年3月の2回初期研修についての説明会を予定しているので、是非、参加してほしい。後期研修に関する説明会も今夏に予定している。他病院で初期研修を行っても後期研修では戻ってきてほしい。

●その他、教員から学生へ

1. 5学年の実習時の知識量・レベルが実習に支障をきたすほど低いので、一般の学部ではないという自覚を持って、1日4時間は勉強する習慣をつけるよう先輩から後輩にしっかり伝えてほしい。

2. 初期研修の定員については、定員が低かった年を基準に現在の定員が決められているので、関西医大の初期研修の定員数が非常に少ない。見直しをお願いしているが、見直されるまでは後期研修で戻ってきていただくことを期待している。生涯教育の中で、大学病院で過ごす必要はあると考えている。

3. 服装の乱れがひどいので医学生にふさわしい服装を心掛けてほしい。このことについて、各クラスでディスカッションしてほしい。その結果、意見があれば、伝えてほしい。



各学年のクラス代表らと意見交換する教学懇談会

同窓会

「同窓会と加多乃会はどう違うのですか？」

「同窓会と加多乃会はどう違うのですか？」という質問を、同窓生自身から受けて驚かされることがしばしばあります。

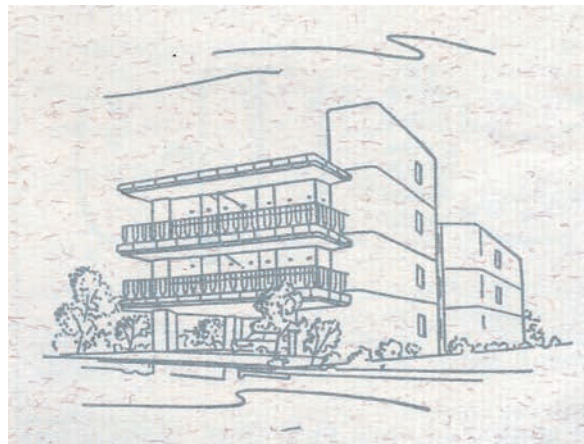
これは、比較的若い年代の同窓生に多いのですが、一方、古い同窓生の場合は、加多乃会というのは同窓会のニックネームであって、加多乃会イコール同窓会であると認識しておられる方もいらっしゃるようです。聞くところによりますと、事実そのような時代もあったようです。

そこで、上記の質問に答えるために、大原一枝同窓会名誉会長(4回生)ならびに鮫島美子加多乃会会長(同窓会名誉会長 13回生)のお話から、加多乃会の成り立ちについて今一度まとめさせていただきたいと存じます。実はこの問題については、「おとづれ」誌上で度々取り上げられ、多くの人によって繰り返し述べられてきたにも拘わらず、いまだに同窓生の十分な理解が得られていないという現状のようです。

「財団法人加多乃会」 加多乃(同窓会)会館

財団法人加多乃会は、本学1回生で初代同窓会長であった故川那部喜美子先生を初代会長として、昭和49年4月に設立されました。それより以前に、川那部先生は欧米を視察された折、欧米の多くの病院や研究所などではそれぞれ基金を持ち、資金や労力の協力を得て、活発に事業を展開しているのを目の当たりにして強い感銘を受けられました。帰国後先生は、「同窓会活動をもっと豊かに幅広く積極的に行っていくためには、同窓会費だけでは到底無理であって、基金の設立が是非必要である」との考えから基金の設立を決意、同窓会員に強力に呼びかけられ、同窓会創立30周年を期して、加多乃会の前身である加多乃会特別基金(カタノファウンデーション)を立ち上げられました。次いで大々的な募金活動を開始、約7,000万円の資金が集まった時点で、財団法人取得のために大阪府との交渉を重ね、ついに昭和49年4月、財団法人加多乃会が認可されるに至りました。法人事業の第一目標に上げられたのが、同窓会館の建設でした。昭和49年7月に同窓会館建設のための土地を購入、昭和51年2月には同窓会館としての加多乃会館が約1億4,000万円で竣工されるに至りました。

財団法人加多乃会が認可設立されて以来、当然、同窓会と(財)加多乃会とは別人格となりました。既述のように、(財)加多乃会は加多乃特別基金(カタノファウンデーション)を前身とし、主としてわが同窓会員の寄付による資産を受け継いで設立認可された財団法人でありますから、(財)加多乃会と同窓会は表裏一体の関係にあり、(財)加多乃会はいわば同窓会事業部が法人化されたものといえるかと存じます。



「おとづれ」の表紙に使われている加多乃会館のスケッチ

以上の(財)加多乃会の成り立ちの経過から、同窓会と(財)加多乃会の違いを要約してみたいと思います。

1. 同窓会は、関西医科大学卒業生全員によって構成されている任意団体であるのに対し、(財)加多乃会は、財団法人加多乃会に寄付をして下った同窓生によって構成されている大阪府認可の財団法人です。
2. 同窓会は同窓会員の年会費によって運営されているのに対し、(財)加多乃会は主として同窓生からの寄付によって運営されています。これには同窓生の遺言等に基づく億単位の寄付も含まれています。
3. 同窓会は、会運営のための一般会務、同窓会誌の発行、同窓会名簿の発行等のほかに、同窓生への研究助成や母校関西医科大学・学生への支援等も一部行っていますが、研究助成や大学・学生への支援は、(財)加多乃会による援助が絶大なものとなっています。また、(財)加多乃会は、法人の性格上同窓会という限られた任意団体のみを受益対象とするものであってはなりませんので、地域住民に対する保健知識の普及啓発運動を行い、あわせて医療向上の充実を図り、地域社会の健康増進に努めています。
4. 現在、同窓会は秋田光彦同窓会会長(34回生)が、加多乃会は鮫島美子加多乃会会長が、それぞれ会長を務めておられます。

(おとづれ編集部)



関西医科大学同窓会シンボルマーク

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成22年5月1日～7月31日)

関西医科大学香里病院	毎日新聞 夕刊5月17日(月)	京阪電鉄香里園駅東地区での再開発が進んでいるという内容。香里病院が新しく生まれ変わるまでの経緯や医療機関を中核とした再開発は全国でも先駆的であるという内容の記事が掲載されました。
木村 穰 教授 (健康科学) 田嶋 佐和子 氏 (管理栄養士) 宮内 拓史 氏 (健康運動指導士)	読売新聞 朝刊5月20日(木)	「医療ルネサンス」にリバウンドしにくい減量について、健康科学センターで行っている指導方法が紹介されました。
谷内 昇一郎 准教授 (小児科学講座)	毎日新聞 朝刊5月26日(水)	「くらしナビ 医療 Medical」に食物アレルギーの新治療法として注目を集めている「経口免疫療法」についての記事が掲載されました。
金子 一成 教授 (小児科学講座)	NHK ニューステラス関西 5月27日(木) 午後6:10～7:00	泉大津市立病院との医師派遣を伴う寄付講座を開設する覚書の調印式の様子が放送されました。
金子 一成 教授 (小児科学講座)	読売新聞 朝日新聞 産経新聞 朝刊5月28日(金)	泉大津市立病院との医師派遣を伴う寄付講座を開設する覚書の調印についての記事が掲載されました。
谷内 昇一郎 准教授 (小児科学講座) 岡本 真道 助教 (小児科学講座)	毎日放送 VOICE 6月15日(火) 午後6:15～7:00	「アレルギーは“食べて克服”」と題し、食物アレルギーの新治療法として注目を集めている「経口免疫療法」について実際の治療の様子などが紹介されました。
赤根 敦 教授 (法医学講座)	京都新聞 朝刊6月18日(金)	警察捜査に正式に採用された当時のDNA鑑定と、現在の鑑定との精度の違いや、鑑定結果だけをうのみにしてしまうと、冤罪を生む可能性があることを指摘し、鑑定結果を検証する体制を確立する必要があるとの赤根教授の記事が掲載されました。
齊藤 幸人 准教授 (胸部心臓血管外科学講座)	日本経済新聞 夕刊6月18日(金)	女性特有の気胸について、症状や治療についての記事が掲載されました。
中井 吉英 名誉教授 (心療内科学講座)前教授	読売新聞 朝刊7月14日(水)	「医療ルネサンス」に心療内科の特集として心身症の患者さんを対象に行われる「絶食療法」についての記事が掲載されました。
神原 憲治 助教 (心療内科学講座)	読売新聞 朝刊7月15日(木)	「医療ルネサンス」に心療内科の特集として「バイオフィードバック」「自律訓練法」などの治療法が紹介されました。

メディア情報お待ちしております

教職員の方々がメディアに登場された場合に掲載させていただきます。このコーナーは、皆様からの情報提供によって構成されます。テレビ出演が予定されている時は、前もって右記の情報連絡先までお願いします。

なお、このメディア情報欄に紹介するのは、朝日、産

経、日経、毎日、読売の5大紙およびNHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局、および主要な月刊誌、週刊誌等に取り上げられたものに限定させていただきます。

情報連絡先

総務部広報課 電話 06-6993-9672(内線 2138)

e-mail : kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

お知らせ

厚生施設 大町荘のご利用ガイド

自然とともに過ごす至福の時を立山連峰を望む本学の厚生施設「大町荘」で満喫しませんか。富山・大町間を結ぶ大パノラマ立山黒部アルペンルートやアルプスの鏡、青木湖、中綱湖、木崎湖の仁科三湖めぐりに、あるいは白馬、上高地、美ヶ原、善光寺、志賀高原など信濃路のあらゆる観光地の基地として利用できます。また、登山、スキーでは、北アルプス裏銀座登山ルートや白馬山麓の各スキー場へのベースにもなります。そこで、今回は、大町荘の利用についてお知らせします。

■利用できる人

本学職員及びその家族・学生・看護専門学校学生

■申込みの方法

各部署管理課(庶務課)備付の申込書に所定事項記入の上、同課に申し込んでください。受付は、利用日の2ヵ月前から1週間前までです。

■利用券の発行

利用許可は、原則として受付先着順とし、利用が許可されたときは、利用許可書を交付します。

利用許可書の交付と同時に利用料を前納していただきます。

食事料及び入湯税は現地で支払ってください。

なお、利用許可書の内容に変更が生じたときは、必ず管理課(庶務課)まで申し出てください。

■利用の取消

利用日の2週間前までの取消しを除いて前納していただいた利用料は返金いたしません。

■施設

木造鉄板葺2階建 敷地 約3,900㎡

宿泊定員 18名

・1階 共同部分 食堂、洗面所、浴室、便所
管理入室、卓球室兼談話室

宿泊部分 和室8畳1室

・2階 宿泊部分 和室8畳2室、11畳1室

全館セントラルヒーティングによる暖房完備、

温泉引湯

■場所

長野県大町市大字平字上原1955

TEL0261-22-6496



大系線信濃大町駅から葛温泉行きバスにて約25分、高瀬別荘口下車、北へ徒歩7分、タクシーでは約20分

「関西医科大学 広報」年4回発行

原稿、ご意見お寄せください

「広報」は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。年4回、季刊号として発行します。皆様からの記事の提供、企画、ご意見などありましたら、広報課まで連絡よろしくお願い致します。

送付先変更の場合はお知らせを

「広報」の送付先の変更が生じた方は、官製はがきまたはファックス、E-mailにて郵便番号・住所・氏名等を記入の上、広報課までお知らせください。

訂正 広報Vol.9 18ページ下から4行目の基礎研究(C)新規「外科学」となっているのは「心療内科学」に、20ページ若手研究(B)新規の下から2行目の「脳神経外科学」は「形成外科学」に訂正して、お詫びします。

編集後記

お盆を過ぎ大文字五山の送り火も終わり、秋の気配を感じるころですが、まだまだ暑い日が続きます。今夏は、猛暑日が過去最多記録とかで、熱中症で亡くなったり救急搬送される人のニュースが連日流れました。「家の中も危ない」らしい。夏バテのどころです。体調管理に気を配りましょう。

さて、今回の広報は7月に開院した香里病院特集を取り上げました。理事長挨拶では、香里病院が大学に果たした重要な役割が話されています。元特殊法人日本医療団から香里病院を買収して病床を確保、なんとか無事に大阪女子医科大学に昇格したというものです。初めて知り、感銘しました。香里病院は、昭和22年8月1日に開設され平成17年12月31日に一旦閉院、このほど新生香里病院として蘇ったのです。地元医師会長も「60年近く地域医療に貢献した歴史が引き継がれる」と復活の喜びを語っておられます。

その他、「共同研究講座 幹細胞異常症学とは」と題し池原名誉教授の寄稿原稿、教師と学生がよりよい大学を目指し語り合った教学懇談会の詳しい内容を掲載してみました。(M.N)

関西医科大学広報 Vol.10

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
TEL 06-6992-1001(代表)
FAX 06-6993-5221

<http://www.kmu.ac.jp/>

E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

平成22年8月26日(木)発行